

地域の伝統行事＆お祭りBOOK「奈良町」Vol.3 自治会アンケート結果

アンケート概要

調査手法：記名による選択式及び自由記述式のアンケート調査票を配布

調査対象：飛鳥地区、済美地区、鼓阪地区、佐保地区、椿井地区の各自治連合会に所属する自治会長

調査期間：アンケート配布期間 令和2年9月上旬から下旬

アンケート回収期間 令和2年11月30日（月）まで

配布方法：飛鳥地区、済美地区、鼓阪地区、佐保地区、椿井地区の各自治連合会の役員会で配布

回収方法：郵送（一部手渡し及びFAX）

回収率：66.8%（205件／307件中）

アンケート調査票

地域の伝統行事＆お祭りBOOK「奈良町」Vol.3			
自治会アンケート			
奈良市では、皆様のご協力のもと、平成30年度、令和元年度に地域の伝統行事を紹介する事業として『地域の伝統行事＆お祭りBOOK奈良町』Vol.1（神社のお祭り）、Vol.2（地蔵盆）を作成し、市民だよりとともに配布いたしました。当事業の最終年度にあたる今年度は、皆様にご協力いただくアンケートの結果を踏まえ冊子を作成する予定です。 つきましては、当アンケートにご協力くださるようお願いいたします。なお、アンケートの内容については、個人が特定できない形で冊子に掲載することがありますので、あらかじめご了承ください。			
自治会名		回答者役職	
回答者氏名		回答者連絡先	
各設問の該当する番号に○をしてください。 問1）所属する自治会で伝統行事を主催、または、地域の伝統行事に参加など何らかの形で伝統行事に参加していますか。 ①はい ー問2へ ②いいえ ー問7へ 問2）地域の伝統行事を残していきたいと思いませんか。 ①思う ②思わない ③どちらともいえない （理由）			
問3）地域の伝統行事を継承するために課題を抱えていますか。 ①はい ②いいえ （課題を具体的に教えてください）			
問4）伝統行事を継承するために工夫していることはありますか。 ①ある ②ない （取り組んでいる工夫を具体的に教えてください）			
問5）他の町で取り組まれている工夫について参考にしたいですか。 ①したい ②したくない			
問6）伝統行事に参加することについてどう思いますか。（複数回答可） ①楽しい ②誇りである ③地域の結束になる ④当たり前のことである ⑤寂し方ないことである ⑥本当は参加したくない			
問7）個人的に伝統行事に参加する機会があれば、参加したいですか。参加してみたい行事があれば教えてください。 ① したい ②したくない （理由・参加してみたい行事等）			
裏面もあります。 回答締切：令和2年11月30日（月）まで お問い合わせ先：奈良市観光経済部 奈良町にぎわい課（原田・田中） 〒630-8253 奈良市鳴川町37-1 TEL.0742-24-8936 FAX.0742-24-8937 （椿井地区）			

■ アンケート結果

問 1) 所属する自治会で伝統行事を主催、または、地域の伝統行事に参加など何らかの形で伝統行事に参加していますか。

- 1、はい 156
2、いいえ 49
(回答数 205、無回答 0)

問 2) 地域の伝統行事を残していきたいと思えますか。(問 1 で「地域の伝統行事に参加している」と答えた人のみ回答)

- 1、思う 137
2、思わない 0
3、どちらともいえない 19
(回答数 156、無回答 0)

残していきたい (90 意見／137 回答者中)

地域活性化・地域の親睦と交流	32
地域固有の伝統・アイデンティティ	12
子どものため	6
歴史・文化の継承	25
責務・使命・当たり前のこと	11
変化の容認	3
その他	1

どちらともいえない (13 意見／19 回答者中)

少子高齢化による参加者・担い手不足	7
その他	6

自由記述式回答の種別と回答数

回答のあった 205 自治会のうち、76%にあたる 156 自治会が、何らかの形で伝統行事に参加しており、そのうちの 88%にあたる 137 自治会が、現在、自治会で行っている伝統行事を残していきたいと思っていることがわかった。自由記述欄に記載のあった中で最も多かった理由は、「地域活性化・地域の親睦と交流」で、次いで「歴史・文化の継承」である。「地域固有の伝統・アイデンティティ」と答えた意見の中には、歴史・文化の継承を意図するものもあれば、地域社会の形成を意図するものもみられた。また、「責務・使命・当たり前のこと」の意見の中には、伝統行事であるからといった理由が多く、「歴史・文化の継承」の一種だと考えられるが、特に使命感を感じているといった

意見のものを特筆している。以上のことから、地域の伝統行事を残していきたいと思っている理由の多くが、「地域活性化・地域の親睦と交流」「歴史・文化の継承」に大別されると考えられる。

なお、残していきたいと回答している意見の中には、残し方として、今のままの形で残すのではなく、社会変化や現状に合わせて取捨選択するなどの変化を容認しながら残していきたい、もしくは、変化することも必要だという考えが 3 意見あった。必ずしも現状のままを残していきたいと思っているわけではないようだ。

問 3) 地域の伝統行事を継承するために課題を抱えていますか。(問 1 で「地域の伝統行事に参加している」と答えた人のみ回答)

- 1、はい 129
2、いいえ 25
(回答数 154、無回答 2)

継承するための課題 (161 意見／154 回答者中)

少子高齢化による参加者・担い手の減少	100
関心の薄れ	17
参加者の偏り	6
コミュニケーション不足・世代間交流	5
時間的余裕のなさ	5
信仰の問題	1
負担の増加	6
資金不足	10
伝統行事の意義の喪失	3
モチベーションの低下	1
変化の容認	1
周知不足	2
その他	4

自由記述の種別と回答数

問 4) 伝統行事を継承するために工夫していることはありますか。(問 1 で「地域の伝統行事に参加している」と答えた人のみ回答)

- 1、ある 78
2、ない 72
(回答数 150、無回答 6)

継承するための工夫 (87 意見/78 回答者中)

参加対象に関する工夫	8
町内以外への声掛け 4、全員参加 4	
周知・呼びかけ方法に関する工夫	18
事前告知 1、のぼり 1、回覧 7、 文書配布 2、声掛け 5、SNS 等 2	
理解向上のための工夫	15
継続して実施 5、行事について伝える 8 会議を開催して伝える 2	
コミュニケーションに関する工夫	5
意見を聞く 1、対話する 2、親睦会 2	
内容の充実	9
子どものための企画 6、福引 3	
運営に関する工夫	24
マニュアル作成 3、機器設備の更新 3 簡略化・規模縮小 8、担い手 9、経費 1	
その他	8
ほかの自治会に教を乞う、など	

自由記述の種別と回答数

問 5) 他の町で取り組まれている工夫について参考に使いたいですか。(問 1 で「地域の伝統行事に参加している」と答えた人のみ回答)

- 1、したい 100
2、したくない 41
(回答数 141、無回答 15)

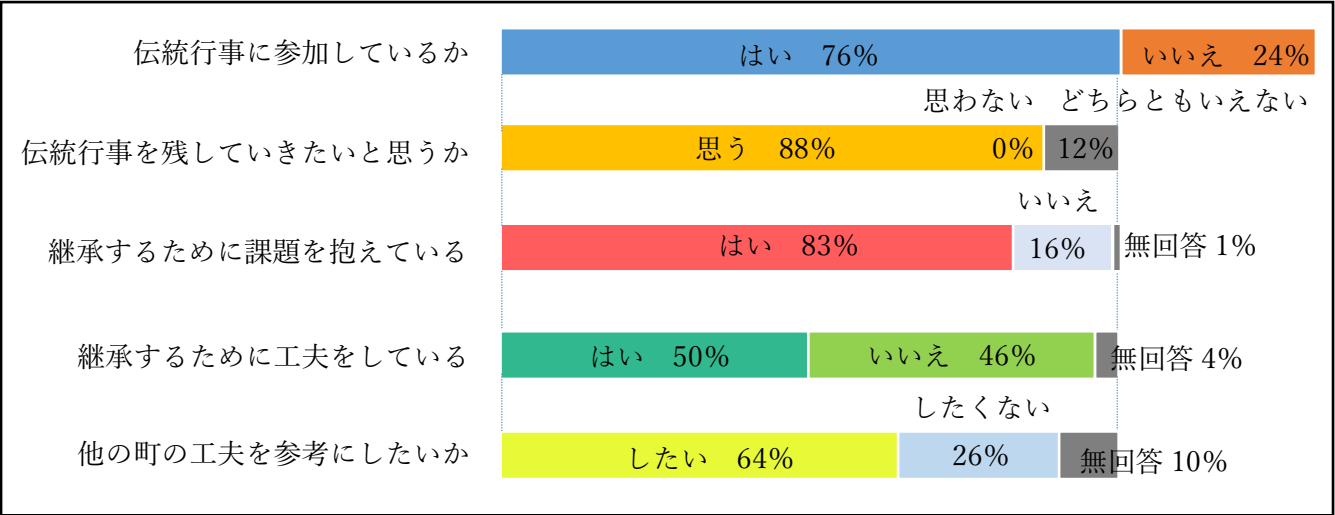
伝統行事に参加している 156 自治会のうち、88%にあたる 129 自治会において、継承するために課題を抱えていると回答しており、具体的な課題としては「少子高齢化による参加者・担い手の減少」が圧倒的に多い。また、参加者が少ない要因として、伝統行事に対する「関心の薄れ」が挙げられ、特に新たに地域に住みだした人、若年層の関心の低さを課題だと認識している様子が窺えた。なお、少子高齢化、関心の薄れに関連して、参加者に偏りがあることを課題だと認識しているところもあった。また、「コミュニケーション不足、世代間交流の困難さ」「時間的余裕のなさ」といった課題が挙げられているが、これら

は、それぞれ「関心の薄れ」と「参加者の偏り」の要因でもある。さらに、参加者が減少していることから、役員といった運営側の「負担の増加」、参加者からの寄付や賽銭の減少や負担割合の増加による不満を生み「資金不足」が生じている。加えて、参加者の減少に伴って、伝統行事が本来持つ意味や由来、やり方を知っている人が少なくなり、行事を行っていてもやり方が正しいのかわからないといったような「伝統行事が形骸化している」と感じている回答もみられた。このような状況から、「参加者のモチベーションが低下して、祭りの回数を減らしたい、減らさざるを得ないといった雰囲気がある」と答える自治会や「ネガティブなイメージを払拭するのが大変である」と答える自治会もあった。以上のことから、少子高齢化による参加者の減少、担い手不足という根本的な課題が、その他の様々な課題を誘発し、複雑に関連し合っている様子が窺えた。

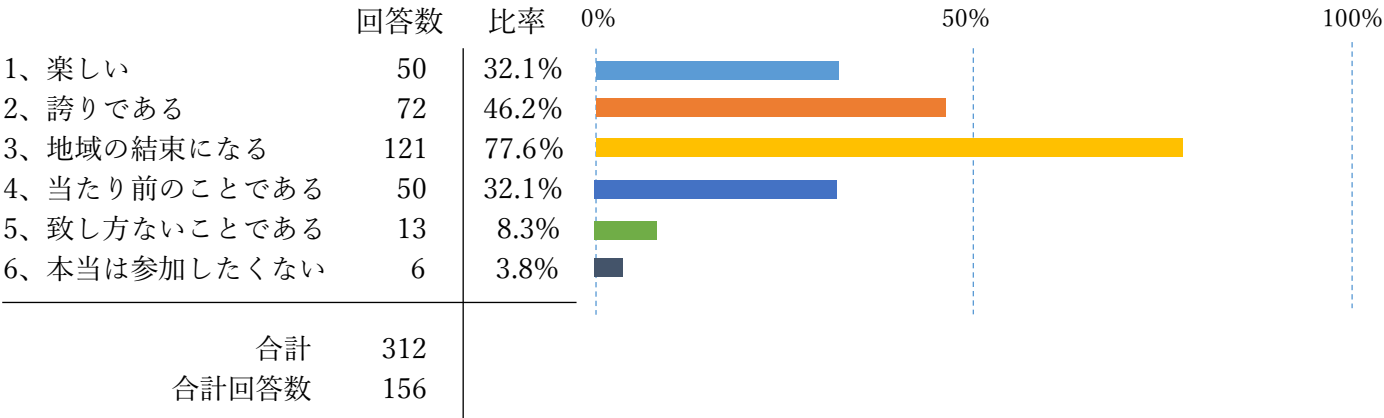
これらの課題を少しでも解消するために、何らかの取り組みを行いたいと思っている自治会もあるが、伝統行事をどこまで変容させていいのか、新住民や若い世代へどのように周知したらいいのかといった、課題を解消するための課題を抱えている自治会もあった。

課題を抱えているかどうかに関わらず、課題解決のために何らかの工夫を行っているかどうかという問に対して、約半数の自治会が工夫を行っていることが分かった。工夫の内容としては、「参加対象の拡大」「周知方法」「理解向上」「コミュニケーションを図る」「内容を充実させる」、負担軽減のために「マニュアルを作成する」といった行事を維持させるための工夫を行っているところが 70 件あり、中には維持させるための「参加対象者の拡大」「新企画の実施」、「行事の合同化」といった変化もみられた。一方で簡略化、規模縮小といった行事を縮小する工夫を行っているところと回答したところは 8 件と意外と少ない。

伝統行事に参加している 156 自治会のうち、64%にあたる 100 自治会が他の自治会での取り組みを参考にしたいと考えており、中には自治体に集会の呼びかけを希望する自治会もみられた。

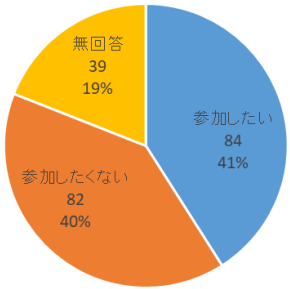


問 6) 伝統行事に参加することについてどう思いますか。(複数回答可、問 1 で「地域の伝統行事に参加している」と答えた人のみ回答)



問 7) 個人的に伝統行事に参加する機会があれば、参加したいですか。参加してみたい行事があれば教えてください。

- 1、したい 84
 2、したくない 82
 (回答数 166、無回答 39)



参加してみたい理由は、自分の町の行事の「参考にしたい」という理由や、「歴史文化を知りたい、継承したい」、「地域との関係を深めたい」など多様な理由があった。参加したくない理由については、「自身の地域の行事があるから」、「身体的な理由」が挙げられた。なお無回答の中には、現在は諸事情により難しいが、事情が変われば参加したいとのコメントもみられた。

問 1 での回答内容	参加したい	参加したくない
現状、伝統行事に参加している	70	50
現状、伝統行事に参加していない	14	32
合計	84	82

■自由記述式回答

①- 1 地域の伝統行事を残していきたいと思う理由 (問2)

地域活性化・地域の親睦と交流 (32)

- ・地域社会、町の活性化、親睦と交流 (11)
- ・地域の関係性が希薄になった現代、伝統行事を開催することによって、コミュニケーションを取ることができ、交流が広がり親睦が深くなる
- ・町内会が南北に細長く、4組に分けてあるので、組同士は交流があるが、ほかの組とはほぼ交流がなく、神社で総会(年1回)を実施し、交流会としている
- ・異世代住民の交流および自治会活動への認識を高めるうえで有効
- ・住民相互の親睦と連帯感を高め、住みよいまちづくりを目指している
- ・地域の絆を保持、町内の結束、団結のために必要 (7)
- ・他にこれといった行事がなく住民が一堂に会する機会がない (2)
- ・町内の方々が年齢関係なくふれあえる機会なので (2)
- ・町内の人たちが協力し合える数少ない機会であるし、諸々が簡略化していく昨今、若い世代に知ってもらい、つなげていく文化だと思う
- ・次の世代に引き継ぎ、町内で今までやっていた行事を理解してもらい、町の発展に貢献できれば良いと思う
- ・住民と地域とを結びつける手掛かりとなる。暮らしと季節や行事と関わりができる。人と人をつなぐ大切な行事
- ・古来より継承されている氏神さんの祭りに参加することで、地域とつながった社会を実感、地に足が付いた生活を過ごすことができる
- ・神社は、まちの中心、生活の場面、場面で大事な役割を担っており、生活スタイルが時代とともに変化していく現在にあっても人間の営みの原型を思い起こす、大切なトポスとしての役割はずっと続く
- ・少ない町内なので何としても残したい

地域固有の伝統・アイデンティティ (12)

- ・その地域に昔からある伝統行事であるから
- ・国際観光都市の中でも歴史の厚い「ならまち」界隈に数多く現存する地蔵尊の祭典は、現状以上に盛り上がるように永続すべき行事
- ・規模の大小にかかわらず、町内の地蔵尊を祀っていくことは継続したい
- ・地域の人々のアイデンティティの形成にかかわることだから
- ・町内所有の涅槃軸を祭り、涅槃講を復活し伝えていくことが必要
- ・その町のよき伝統は残すべき
- ・地域の歴史や伝統を知り、地域の成り立ちそのものを現代の住民たちが認識するため
- ・地域としての歴史と人のつながりがあるから、継承しなければならない
- ・行事をすることによって、伝統を継承し地域の歴史を知ることができる。知ることにより、地域に関心を持ち大切にしたい気持ちが生まれると思
- ・奈良の歴史は奥深く、全国に影響を及ぼす。地域の伝統行事はそんな歴史を由来としており、古今東

西の伝統行事を存続させるためにも、極めて重要

- ・やはり奈良の中心地、できる限り、残していくことが必要
- ・地域の歴史と伝統を感じる機会

子どものため（6）

- ・年少の頃から祭りに参加していたことを記憶にあることは素晴らしいこと
- ・子どもたちが喜んで参加できる
- ・地域で協力する姿を子どもに引き継ぐため
- ・子供たちへの伝統行事への参加を通じて、日本の社会様式の一つのあり方を見せるいい機会
- ・子どもたちに伝承したい
- ・近所の子どもたちが来て、にぎわっているので、残していきたい

歴史・文化の継承（25）

- ・伝統行事が一度消滅すれば復活が難しく困難である（4）
- ・文化を次世代に残したい（3）
- ・我々住民の先人たちが残してくれた伝統行事を継承し、後に伝えていくことが必要（6）
- ・毎年4回祭礼が半世紀以上続いており、今後も大切にしていきたい
- ・安永元年（1772）の伝統行事、自治会で子々孫々まで伝える行事だと思っている
- ・佐保川の奈良市内の桜をいつまでも維持管理して、見物人の心を癒していきたい
- ・12-13世紀に造立され江戸時代に修復されている極彩色の立派な地蔵菩薩立像をお祀りしており、今後も地蔵盆という形でお祀りしていきたい
- ・弁財天祭も大日如来祭もそれぞれ江戸時代から300年近く続いている行事であること
- ・歴史と文化のある町なので残していきたい
- ・町内にある神社は、小さな神社だが、長い歴史の割には、見捨てられたような存在。「隠れたところ」にスポットを当てることで、伝統行事のすたれを防止
- ・自治会の行事として残していきたいが、由緒ある稲荷神社なので祭祀として守っていこうと思う
- ・年間15回ほどの行事を中心に文化の伝承としても地域で大切に保存継承していかなければならない
- ・地蔵尊に「よだれ掛け」を掛け、子どもの成長、家内安全を願う行事は大切に残していきたい
- ・近代化すると一層古事を大切に
- ・以前と同じようにしていきたいと思う

責務・使命・当たり前のこと（11）

- ・明治初めより祭りの記録が残っており、自治会が今後も将来にわたって維持継承すべき使命を有している
- ・この代で断絶させるわけにはいかない
- ・先人の残していった思いを後世に伝えていくその責務があると思う
- ・江戸時代以前より、継承されている文化財の仏像（国立博物館に預けている）もあり、代々祭っていく必要、義務があり、若手に引き継いでいきたい
- ・奈良の町衆の伝統を後世に伝えるため住人の義務と思う（奈良は社寺と町が一体）
- ・伝統行事のため後世に伝えていくべき（3）
- ・神事にまつわる伝統行事は末永く残すべき

- ・残すのが当然である
- ・残すとか、残さないとかではなく、行っていくもの

変化の容認（3）

- ・全ての行事を残すとは思わないが、伝統行事といえども時代とともに変化していくもので、変化を受け入れる姿勢も必要
- ・良いものは残し、悪いものは捨てる（改善）と考えているから
- ・昔から伝承されてきた行事には何らかの理由がある。その理由が、現在、適切か否かという問題があっても、当時の考え方や風習を今と照らし合わせてみて、改善すべきところは改善し、残すべきところは残し、対応して、我々の今後に役立つ

その他

- ・人々の暮らしは昔より良くなっているのか、これからどうしたらより良い暮らしになるのか、静かに考え、振り返る機会

①-2 地域の伝統行事を「残していきたいか、残していきたいと思わないか」のどちらともいえない理由（問2）

少子高齢化による参加者の減少・担い手不足（7）

- ・高齢化により年々行事を継続するのが難しくなっている
- ・少子高齢化で平均年齢が高く、年配者ばかりで難しい
- ・子どもさんが少なくなっている
- ・伝統行事を継ぐ人が少なくなっている。おじいちゃん、おばあちゃんが町内に住みなれているから残り、家族は別にマンション等に住むことで地域から離れている為、いずれすたれていくように感じる
- ・ほとんどの会員が興味を持たない。世話をする人が老人ばかりで、会長が一人でやっているようなものの
- ・高齢化で活動できる人も限られ、若い人は仕事を持ちながらなので時間的にも無理がある
- ・町内の子どもが数人であり、町の高齢化もあり真夏に会員が外で待機するようなことはやめる方向に進んでいる

その他（6）

- ・固執する必要はない
- ・形だけのものになっているものもあり、その主旨を理解し柔軟に変更していく必要があると思う
- ・それぞれの伝統行事によって異なる
- ・参加者意思を保つことの難しさ
- ・開催日（曜日）により、主催者側の人数も振るいにくい。また、お客様の人出もまばらになる。
- ・いろいろな考え方の人がいる

②地域の伝統行事を継承するために抱えている課題（問3）

少子高齢化による参加者・担い手の減少（100）

主な意見

- ・毎年地蔵盆をしているが、主体はお寺が企画され設営されている。当自治会は補助で清掃と提灯付けだけだが、高齢者の上、参加できる人がいない。人的な要因が全てである
- ・後継者難、自治会長をすれば年1回といえども、暑い中で地蔵尊祭典をしなければならない。会員一同も似たり寄ったりで、それがなければよいとのムードが強く漂う（近隣町で地蔵盆がないところがあるので）
- ・氏子の高齢化も進み、新たな「行事のあり方」を進めようにも後継の若い世代に引き継ぎがうまくいっていない
- ・秋祭りの子どもたちの参加も年々少なくなっており、伝えていく子どもたちはもちろん、親も少なくなっており、あらゆる意味において人口減少は根本の課題
- ・伝統行事を継承する担い手である若年層住民が少なく、その後の年少者数も地域にとどまるかが不明で、将来が見通せない
- ・地域住民の年齢が高くなり、その子どもたちはこの地を離れ、東京、大阪などの地で職業をもち、所帯をもち、正月、盆などは帰省してもごく限られた期間のみ
- ・子どもが少なく、お稚児さん行列の参加が危ぶまれる
- ・老人が多くなり、下働きに必要な力仕事ができるものも減っている
- ・高齢化が進み、また、若い人たちが地域を離れていっているため、毎年規模を縮小している

関心の薄れ（17）

主な意見

- ・参加者が少ないため、どのようにして関心を持ってもらえて、参加者を増やすのかが課題
- ・氏子の代表と地域自治会との関係が密なところと、そうでないところの差が大きく、全体としての力になっていないことがネック
- ・家族で地域の伝統行事に出かけることが少なくなって、近所同士のむずび付きや会話が減り一緒に出掛けるような機会が減っている
- ・今後の継承のため町内の関心を高める方策
- ・近隣から苦情が出るため開催場所が少ない
- ・地蔵祭りに全く関心を示さない人もいる（特に他地域からの移住者）
- ・神事に対する関心が低く、神前にお参りする方も年々減少してきている
- ・新たにマンションや居住してきた人たちは、歴史や慣習に関心がない
- ・参加意識が徐々に希薄になってきている
- ・関心が薄い。小中学校での教え方を工夫し、奈良に住むとはどういうことなのかを考えさせてほしい
- ・若い人は関心がない

参加者の偏り（6）

主な意見

- ・旧町内の人参加してくれるがマンション等の参加が少ない。その都度案内参加表を配っているが。
- ・若年層の参加が減少傾向にある

- ・ 40 歳代以下の比較的若いご家庭の方々にとって、魅力的な内容になっていない（魅力的な内容だと思われていない）
- ・ どうしても限られた住民だけの行事になってくるので、他住民とも交流が取れるようにしたい

コミュニケーション不足、世代間交流の困難さ（5）

主な意見

- ・ 現在の参加者が高齢化する一方で、若い自治会員において講への考えについて認識のずれがあるように思う。自治会員としての誇りともいえるが、年齢の差を越えてコミュニケーションを取り合うことへの不慣れが原因か、新規に講員を募集しても参加者が少ない
- ・ 他地域より入られた方々でもあり、年齢のギャップは否めない、徐々に地域になじんでこられているように思うので、うまく継承していければと思う
- ・ 近所付き合いの減少
- ・ 自己の考え方や主張を重視するあまりに他人の意見や考え方に同調することができず、すべての伝統行事を否定し、屁理屈を重ね、おのれの正当性を述べるのが人権であると考えてる人が多くなっている

時間的余裕のなさ（5）

主な意見

- ・ 仕事等で忙しいからか、若い人の参加が少なくなっている
- ・ 新しく入居してきた方々は共働きで行事を行いたくても集められない
- ・ 継ぐ人たちも昔のような商売をしながら、というわけにもいかず、行事を行うこと、文化として継承することすべてが課題
- ・ 40 歳代から 70 歳代は年金の関係等で働いており、お手伝いをお願いできない

信仰の問題（1）

- ・ 宗教上の理由により、民間信仰にご理解をいただけないケースがある

負担の増加（6）

主な意見

- ・ 合同で地蔵祭をしているが、各町会とも役員に負担がかかりすぎる
- ・ 町内会の衰退（住民減少）により維持管理が難しい
- ・ 内容の充実化が図れない
- ・ 魅力的な企画にしようとするパワーがないように感じる

資金不足（10）

主な意見

- ・ 人数が少ないため、寄付などの財源が乏しい

- ・祭りの予算も過去の預金のとりくずしで賄っており、後 10 年ももたない
- ・本祀りに来る人の減少に伴い、賽銭等も減少し、経済的にも以前同様の開催が厳しくなっている
- ・伝統行事を行う上の費用の問題
- ・負担金抛出に不平不満が続出してきている
- ・周辺 4 自治会のボランティアで維持管理しているため、管理費の賄いに苦勞している

伝統行事の意義の喪失 (3)

- ・伝統行事の内容を詳しく知る先輩の方々が少なくなっている
- ・社寺にお金を抛出するだけの希薄な関係になっていて、コミュニケーションがない
- ・伝統的な行事としてやり方がわからない、開催したが人が集まらず、何をしたいかわからず。形だけでよくわからないため、人を集めるための何がいいのかかも不明

モチベーションの低下 (1)

- ・参加される人数が少なくなり、年 3 回の祭りごとが 2～1 回に思うこともある

変化の容認 (1)

- ・今の時代にアレンジしても良いのか、など。古い様式をどこまで維持すればよいのか

周知不足 (2)

- ・地域へは簡単に案内できるが、一般の方への周知が今のところ町内に立てる「のぼり」のみ。ほかにもう少し拡大した広報をしたいが、あまり費用はかけられない
- ・近隣にもアピールして、多数の方々の参加が望ましい

その他 (4)

- ・他所の文化を教えてほしいと思う
- ・見物人が桜の木に登ったり、木の枝を折る行為に困っている
- ・施設の老朽化
- ・狭い道路に面していて、地藏尊の前でゆっくり地藏盆を行うことができない

③地域の伝統行事を継承するための工夫（問4）

参加対象に関する工夫（8）

- ・ 周辺地域へ告知する
- ・ 町内の保育所に声掛けする
- ・ 住民だけでなく、里帰りの孫、マンション住民、近隣の子どもたちにも参加してもらう（2）
- ・ なるべく町内全員が参加する、または、全員が参加するように役割分担をする（4）

周知・呼びかけ方法に関する工夫（18）

事前告知

- ・ 事前に開催案内を行う

のぼり旗

- ・ 町内にのぼり旗を立てる

回覧

- ・ 回覧で案内を行う（6）
- ・ 地藏盆の「よだれ掛け」を回覧で募集する

文書配布

- ・ 回覧だけでなく、印刷して配布する（2）

声掛け

- ・ 各戸に声掛けする（3）
- ・ 声掛けをしてみんなで行くようにしている
- ・ 若手の自治会員には声掛けをする

S N S 等

- ・ 地藏盆を S N S を用いて広報（日本語だけでなく英語でも）
- ・ Facebook 等を利用して伝える

理解向上のための工夫（15）

継続して実施する

- ・ 毎年どんなときでも継続することで、地域住民やそれ以外の人にも理解を促す（5）

行事について伝える

- ・ 史料保存館の人に来てもらって講座を開催する
- ・ 行事の歴史を調べて資料を作り配布する（3）
- ・ 地域の社寺を取材して、行事に対する協力をお願いする
- ・ 子どもや若年層の夫婦に参加を勧める際に、参加する意義を伝える
- ・ 若年層に教育する
- ・ 体験参加を呼び掛ける

会議を開催して伝える

- ・総会や会合を開き、みんなに伝える
- ・会議の場所を神社で行い、関係を深める

コミュニケーションに関する工夫（5）

- ・年配の方には声をかけて、40代の方にはいろんな意見を聞く
- ・地藏尊ではテントを張り、お供え物や福引の景品を買いに若い方の車で同乗していったりしながら対話をしている
- ・子どもとのふれあいで毎週交流している
- ・行事後の直会をコミュニケーションの場を利用
- ・行事の後、親睦を兼ねてビヤガーデンを開催

内容の充実（9）

子どものための企画を考える

- ・できるだけ多くの子どもが参加できるように、子どもが喜ぶ催し（金魚すくい、お菓子配布）を行う（4）
- ・地藏さんラリーとして、各地蔵尊を巡ってスタンプを集め、抽選で子どもたちに好きなものを選んでもらうようにしている
- ・「よだれ掛け」の募集を回覧板で行い、地藏盆の際に持ってきてくれた子どもにお菓子を配る

たくさんの人に集まってもらえるような企画を考える

- ・福引や抽選会を行う（3）

運営に関する工夫（24）

マニュアル作成

- ・誰でもわかるようなマニュアル（詳細な説明資料）を作り、初めてでも行事ができるようにする（2）
- ・合理化を図るべく、①祭典用具の整理とともに、改良改善を実施、②用具一覧表（台帳）を作成、③祭典提灯飾り付け作業の手順書を図入りで作成している

機器・設備の更新

- ・行事に使用する備品（テントや提灯）の最新化
- ・祭典用具の統一
- ・お堂に入るのに階段もないので、高齢者のために役員が手作りした

簡略化、規模縮小

- ・簡素化する（5）
- ・神輿を車で運搬する
- ・開催期間を2日から1日に変更する
- ・規模を小さくする

担い手

- ・近隣自治会と合同で行事を実施する（4）
- ・持ち回りで担当する（2）

- ・有志で実施する
- ・テント設営を手伝ってくれる人がいないためアルバイトを雇ったことがある
- ・参加者の負担軽減を図る

経費

- ・維持費負担の軽減

その他

- ・参画しやすい環境づくり
- ・小規模ながら、各家ガレージ等で分散して行っている
- ・毎年役員が変わるが、それぞれが工夫して変化しながら続けている
- ・講員 19 名が協力して運営している
- ・自治連合会への参加
- ・町内の夏祭り、月嘗祭り、歳旦祭等、誰かしら参拝されること（ほぼ全員）。神社の清掃等で常に関わっている。
- ・他の自治会へ教えを乞いに行くなどしている
- ・どうしたらよいかわからない、行政主導でやってくれとは言わないが、ほかのみんながどうしているのかも知らない

④個人的に伝統行事に参加する機会があれば参加したいか（問7）

参加したい理由や行事

理由

改善の参考にしたい（5）

- ・参考にできることは取り入れていきたい
- ・伝統行事の成り立ちと運営方法を知りたい
- ・他の自治会の神社に関する行事内容と収支が知りたい
- ・当町の祭典改善点等の状況把握をしたいため。なお、貴課主催の地藏盆限定での会合（関係町含めて）を望みます
- ・他の町の地藏祭など、わが町の伝統行事の参考になるかもしれない

歴史・文化の理解、継承（4）

- ・生活の中の節句になる
- ・古くからの歴史・文化が伝わり、現在の奈良を形作っているものであり、現在の奈良に生きるものとして、これらを知ることは歴史・文化を深く理解し、次の世代に伝えていかなければならないと考えするため
- ・いろいろな行事を体験し、多くの方に伝えたい
- ・子どもたちに伝承したい

地域のことを知りたい、地域との関係を深めたい（4）

- ・こちらに引っ越してきて間もないので、地域のことを知りたいから
- ・自治会のつながりもでき、地域の歴史にも触れられるかと思う
- ・文化交流できれば、ほかの人と触れ合うことが良いと思う。町内清掃及びみんなと一緒に楽しくやることが長く続けられるように思う
- ・いつ起こるかもわからない災害等により、個人ではなく、他人や地域の力が必要となるとき、少しでも自分の活動範囲を広げ近隣との関わりを深めたい。
- ・未だに知らないことが多いので勉強したい

手助けしたい（1）

- ・今後、少子化、人口減での後継者不足対策の手助けをしていきたいと思っています。

見学したい（2）

- ・まずは行事を見学（見物）に行きたい
- ・見学するのが楽しみです

機会があれば（2）

- ・機会があればとは思っているが、現在のところは観賞ですませている
- ・時間が合えば参加してみたい

参加したい気持ちはあるが、参加しづらい現状がある（5）

- ・「参加したい」けど煩わしい「役」を仰せつかるのはちょっと、というはなはだ勝手な気持ちもある
- ・個人的には参加したいと思う。以前は御霊神社の秋祭りの御渡式に参加していたが年とともに身体の負担を考えれば、なかなか行事に参加しづらいのが現状。
- ・大きい数珠が町内の家で保管されていることが判明。地藏堂で「数珠繰り」を復活させたいがリーダー

ーがない。

- ・個人的事情で今のところは不可能だが、参加してみたい
- ・まだサラリーマンで、遠方通勤しているので余裕がない。退職後、参加したいと思う
- ・奈良の街に住んでいる限り、伝統行事に参加できる機会があれば参加したいと思うが、仕事等で忙しいので、なかなか参加することができない

その他 (5)

- ・いろいろと経験はしてみたい
- ・自分が幼少期に参加した行事は、やはり懐かしく楽しい思い出の一つになっています。子や孫と一緒に、それらの行事に参加できること、話題にできることが、今は楽しみになっている
- ・当自治会には、地藏様がなく、昔よりほかの自治会の地藏盆に参加させてもらっている。今後も今まで通り、参加していきたい。
- ・毎年、企画し実行している
- ・おん祭りに参加している

参加してみたい行事

なんでも (1)

- ・何でも参加したい

地域や近隣の行事 (4)

- ・近隣の地域の行事
- ・今御門町の道祖神社祭にはお手伝いしたい
- ・地域の祭り、行事、公民館のイベント
- ・小さな地元のお祭りでも参加したい

子どもが楽しめる行事 (2)

- ・この行事というものは特にないが、子どもも参加して楽しめる夏祭り
- ・天神社夏祭り、子供が楽しめるから

神社のお祭り (8)

- ・神事、神社の祭 (2)
- ・春日若宮おん祭 (3)
- ・漢國神社例大祭
- ・氷室神社例大祭
- ・昨年、御霊神社の秋のお祭りに自治会長として参加し、御渡りの行列に加わった。初めての経験だったが、神事に関われてよかった。例年、お祀りやくじ引きにはいっている。地域にお寺や神社があって、お参りなどができるのがありがたい。

地藏盆 (6)

- ・地藏盆 (4)
- ・盆踊り
- ・数年前の新薬師寺の地藏盆はとても良かった。ボランティアで屋台などをしてもらえなくなったとことで、とても残念に思う。金魚すくい、スーパーボール、綿菓子、たこせん等々、とても盛り上がっていた。

その他（6）

- ・たくさん参加しているため
- ・新住民を巻き込まなければだめ。まだまだ知らないことがあるに違いない。裏面の一覧は、とても面白い。知らないことばかり。もっと広報してほしい。
- ・東城戸町で過去、落語会やジャズを聴く会などを実施しており、気軽に参加できる行事に参加したい
- ・質の良い行事には参加したい
- ・佐保川・川路桜祭り（2）
- ・秋祭り、夏祭り、花見など

参加したくない理由

自身の地域の行事があるから（5）

- ・村の行事優先にしたい
- ・地域の伝統行事を全うしたい
- ・現在の当自治会の行事を将来に維持していくことで精いっぱい
- ・今は自治会での行事等で精いっぱいのため
- ・現状の行事を継続することに専念する

時間的理由（4）

- ・仕事が忙しい
- ・多忙のため
- ・伝統行事以外のイベントに多数参加しており手が回らないのが実情
- ・時間的余裕

身体的理由（6）

- ・自身の身体的な問題で重労働ができないため、事務などであれば時間が許せば協力可能
- ・自身の健康上の問題のため（2）
- ・体力的に難がある
- ・コロナ感染症のことを思うと、落ち着くまでは高齢者であるので、用心のため、行事参加はしたくない
- ・既に高齢であり、体力的に無理。地域も高齢者が多い。

環境的理由（1）

- ・交通の便が悪い。車での参加になるため。

現状で十分（2）

- ・人のつながりでほかの町などの行事にも参加する機会があるので、個人的にはこれ以上は必要ないかと考えている
- ・新たな行事には参加しようと思わない

その他（8）

- ・子育て中は地蔵盆などに参加していたが、今は子どもも独立したため
- ・地域の伝統行事が大切に守り継がれて身近に感じられるのは、歴史のある古い町奈良ならではの思い。直接参加はできずとも、違った形であれど応援していきたいと思います。
- ・地区より小さい町等の行事なので、見知らぬ人が出入りするとセキュリティ的にもリスクが増えそう。

- ・「参加する」が単なる観光でないなら伝統行事はそれまで行ってきた地域の人々で行うのが良い
- ・見学することの楽しみがある
- ・できない
- ・今のところはしたくない
- ・現在は特に

新奈良町にぎわい構想 Ver.1

地域の伝統行事&お祭りBOOK「奈良町」Vol.3

自治会アンケート結果

令和2年12月

奈良市観光経済部奈良町にぎわい課